

科目名		看護の統合と実践		単位(時間)	11単位(280時間)
担当講師名		専任教員 他		DP	1・2・3・4
科目設定理由		「看護の統合と実践」については、基礎分野・専門基礎分野を基盤として、チーム医療を含め、より臨床実践に近い形で学習内容を設定しています。「災害看護Ⅰ」では、災害や日常生活の中で救護を必要とする場面で対応できるよう、救命講習(「AEDを使用した心肺蘇生法」講習会:特定非営利活動法人AED普及協会認定AEDインストラクター)演習をします。また災害時の救護活動について看護師が他職種とどのように協働しているのか知り、看護学生として今できることは何かを考える機会にしましょう。「災害看護Ⅱ」では、災害サイクルの視点で、被災者の理解と看護の役割を学び、さらには災害現場を具体的にイメージしながら、災害活動演習を行います。「臨床判断演習Ⅰ」では、医療の質向上と患者安全の推進を目的とした、医療チームにおけるコミュニケーションとチームワークの方法を学び、侵襲度の高い看護技術を習得します。また、その場で与えられた臨床課題に対し、判断力・技術力・態度など学習した知識を使って、看護実践能力の到達度を確認します。「臨床判断演習Ⅱ」では、救命の連鎖についてなど、医療チームの一員として急変時がイメージできるよう救命講習(ICLSコース:日本救急医学会)の演習をします。また既習の知識・技術を統合し、対象に合わせた必要な援助を安全管理や時間管理、優先度の視点でその時・その場で判断・実施できる能力を習得します。「看護管理と医療安全」では、看護マネジメントの概念や多職種協働、看護師としてのメンバーシップおよびリーダーシップを理解し、医療安全では安全な医療に関する制度、システム、安全な医療環境への対策及び看護の専門職者としての事故・安全管理・危機管理・感染症対策に関する基礎知識を学びます。「国際看護」では、国際協力におけるしくみや文化を考慮した看護など、国際看護の基礎知識を学んだうえで、国際救援など具体的な看護活動を知る機会になるでしょう。「看護の探求Ⅰ」では、看護における研究の意義と必要性を理解し、看護研究の基礎を学びます。「看護の探求Ⅱ」では、看護における研究手段の実際を学び自己の看護実践を振り返り専門職業人として成長していきます。			
科目構成	科目名	災害看護Ⅰ	災害看護Ⅱ	臨床判断演習Ⅰ	臨床判断演習Ⅱ
	単位時間	1単位 15時間	1単位 20時間	1単位 20時間	1単位 30時間
	履修時期	31期生 1年次 前後期	30期生 2年次 後期	30期生 2年次 前後期	30期生 2年次 前後期
	学習範囲	1 災害看護の展開 2 一次救命講習 *AEDを使用した心肺蘇生法 3 災害時における他職種との協働	1 災害と心のケア 2 災害看護の基礎知識 3 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 4 被災者特性に応じた災害看護の実際 5 避難所演習 トリアージ	1 臨床判断とは何か 2 気付きとは何か 3 解釈とは何か 4 反応とは何か 5 臨床判断の思考過程 6 多様な見方の理解 7 OSCE (客観的臨床能力試験)	1 救命処置と看護 2 二次救命処置 *ICLS 3 多重課題
科目構成	科目名	看護管理と医療安全	国際看護	看護の探求Ⅰ	看護の探求Ⅱ
	単位時間	1単位 30時間	1単位 15時間	1単位 15時間	1単位 15時間
	履修時期	30期生 2年次 前後期	30期生 2年次 後期	30期生 2年次 前期	30期生 2年次 前後期
	学習範囲	1 看護とマネジメント 2 看護ケアのマネジメント 3 看護サービスのマネジメント 4 マネジメントに必要な知識と技術 5 看護を取り巻く諸制度 6 組織的な安全管理体制 7 看護部門・病棟管理の実際 8 看護における医療事故と安全対策	1 国際看護学とは 2 国際看護に関連する基礎知識 3 国際協力の基礎 4 看護師の国際組織と国際的な医療関連制度 5 国際協力と看護 6 我が国における文化や制度を考慮した在留外国人への看護実践	1 看護研究とは 2 事例研究とは 3 文献検索の方法と実際 4 研究の倫理的配慮 5 クリティーク 6 研究企画書の書き方 7 論文の書き方 8 事例研究の進め方	1 事例研究・研究論文の作成 2 研究発表
実習のねらい	科目名	統合実習			
	単位時間	3単位(120時間)			
		統合実習は、チーム医療を含め、より臨床実践に近い形で学習し、知識・技術を統合した実習です。この実習は、看護チームの一員として多職種との連携の中で対象の思いを尊重しながら、その人らしい生活を目指した看護を行います。今回の実習では「看護管理実習」「メンバー同行実習」「夜間実習」「複数受け持ち実習」という形態をとります。「看護管理実習」は病院及び病棟の組織、管理の実際、病床管理、退院に向けての調整、災害時や医療安全の対策・対応など患者の安全で快適な療養生活のためにどのような取り組みがなされているのか、その中で看護が担う役割について今までの実習の体験を土台に、視野を拡大して考えましょう。「メンバー同行実習」は実習指導者に同行し、調整や連携の実際について学びます。臨床看護実践には、高度な医療に対する専門知識、安全安楽な技術の提供、実践するうえで緊急度・重症度を判断する力が必要です。同行を通して臨床現場の状況に合わせて行動できる力を学び、磨きましょう。「夜間実習」は対象の夜間の状態と看護について知り、夜間の安全管理、夜間勤務帯のケアの調整方法、継続看護がどのように行われているか学びましょう。「複数受け持ち実習」は、チームに入りながら患者2名を受け持ちます。対象に合わせた看護援助を優先順位や時間管理の調整をしながら看護実践をしましょう。看護実践能力の向上には、リフレクションが大切です。すでに皆さんは領域実習でリフレクションから、対象者や仲間の尊厳と権利を擁護すること、看護学生として学びに誠実に向き合うことに取り組んできました。実習での体験から自己の課題を明らかにし、未来に向かって自ら成長し続ける看護師を目指しましょう。			